

元気で美味しいブロッコリーを目指して

農事組合法人「四季菜くらぶ」代表理事の青木東洋さんは、水稲、ブロッコリー、ニンジン、レタス等を栽培されている生産者です。

専用銘柄と土壌診断を活用したブロッコリー栽培の『勘どころ』についてお伺いしました。



追肥は意外に難しい

「追肥はしたくない、追肥をしなくても済むという目的で、硫黄被覆肥料に注目しました。」
青木さんは硫黄被覆尿素を配合した、「四季菜くらぶ」オリジナルの『ブロッコリー専用銘柄』を使用しています。
「ブロッコリーへの追肥はタイミングが難しく、特に夏作のブロッコリーはとても神経を使います。」



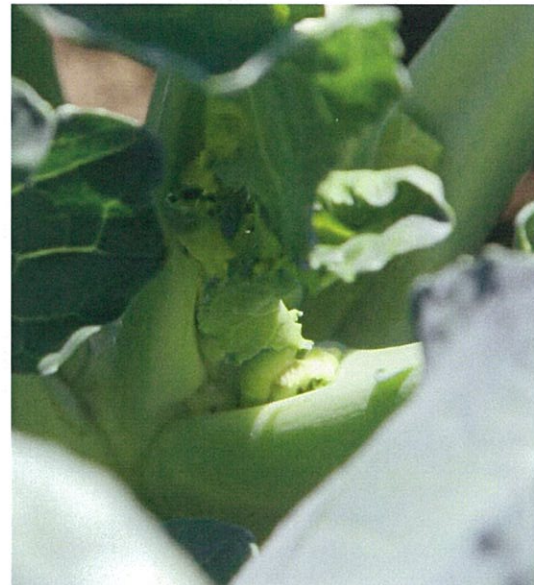
今年は早魃で追肥・中耕培土ができない

圃場の状態に『合わせた』施肥設計

青木さんは積極的に土壌診断を取り入れています。
「作物ごとに好みの肥料成分や要求量が異なります。だから、畑にどのくらい肥料分があるか分からないと、まず施肥設計が立てられない。畑にどのくらい肥料があるのか知らないで、肥料を撒く度胸はありませんよ。」



作物を前にすると、とても熱く語られます



もう少しで『出蕾』

「まずは自分の畑がどうなっているのか知りたかった。昔は豚糞堆肥が沢山あり、その堆肥を使った畑と使っていない畑で、ずいぶん地力が違うと感じていました。特によその人から借りた畑はすごくその差を感じました。」
「借りた畑は何を作るかよりも、まず土壌診断をして状態を知ることが先決です。不足している成分を確認することも必要ですが、過剰な成分も確認して施肥量を抑える。このこと自体がコスト削減にもなります。それから作物を決定し、施肥設計を立てる。施肥設計を立てる上で、土壌診断は欠かせないことだと思います。」



編集後記

今年(平成24年)も暑かった！9月末まで暑かった。そんな中、『苦しい、暑い』って言ってますよ。本当にかわいそうだ。」こんな言葉を作物にかけてあげられる生産者は、本当のプロだと思います。愛情いっぱい！間違いなく美味しいです！！

「元気で美味しい、それだけです。」

「要は元気に育ってほしい。それだけです。消費者の皆さんに食べていただいて、『美味しい』って言っていただくこと、喜んでもらえること。それ以外ないですよ。」
オリジナル専用銘柄や、土壌診断の活用は、全てこの言葉に集約されます。
青木さんは作物を前にすると、まるで泉のように知識と愛情が溢れ出し、とても嬉しそうな表情をされます。
大変貴重なお話を聞かせていただきました。本当にありがとうございます。



早魃でカラカラ。「苦勞させられました。」

「夏は定植してから20〜30日で追肥をし、中耕培土をするのが基本です。ただこの時期は生育がとても早いので、ブロッコリーを痛めずに培土が出来る期間は、非常に短いんです。また雨や早魃など、天候が原因で適期を逃してしまふこともよくあります。それに肥料を撒きながら培土するのはとても大変なんです。」
青木さんが使われている『ブロッコリー専用銘柄』は、元肥一発型の肥料です。
「元肥で長期間効き続ける肥料を入れておけば、ブロッコリーの生育ステージに関係なく培土が出来る。追肥のタイミングと中耕培土をリンクさせなくて済むということが、凄くメリットになっています。」